

情報学部 情報デザイン学科

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
小栗 勝也	OGURI Katsuya	教授	慶應義塾大学大学院 法学研究科 政治学専攻 修士課程修了、 慶應義塾大学大学院 法学研究科 政治学専攻 博士課程単位取得退学	法学修士 (慶應義塾大学)	日本政治学会、日本選挙学会、日本法制学会、慶應法学会	近現代日本政治史、政治学、現代マスコミ論	近現代日本政治思想史	・袋井地域初の小学校＝用行義塾に関する研究 ・明治以降の日本政治史・思想史・世相史に関する研究 ・日本の選挙分析、地方議会史の編纂
富田 寿人	TOMITA Hisato	教授	順天堂大学大学院 体育学研究科 修士課程修了、 順天堂大学 研究生 修了	体育学修士 (順天堂大学)	日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、American College of Sports Medicine、日本ウォーキング学会	運動生理学、体力学	運動生理学	・ノルディックエクササイズ&ノルディックウォーキング、N A P、東京、(2012) ・アクティブ・チャイルド・プログラム、日本体育協会、東京、(2010) ・ジュニアスポーツのための医・科学ハンドブック、日本体育協会、東京、(2007) ・体力とはなにか、N A P、東京、(2007) ・スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成テキスト、日本体育協会、東京、(2006) ・リーダーのためのテキストブック、日本スポーツ少年団、東京、(2004) ・ショートトラック指導者育成教本、遊戯社、東京、(2003)
大槻 弘順	OHSUGI Kojune	教授	東北大学大学院 理学研究科 博士課程修了	理学博士 (東北大学)	日本発生物学会、日本分子生物学会、日本生化学会、日本動物学会、Society for Developmental Biology USA、日本癌学会	発生物学、遺伝子工学、細胞工学、人工生命	動物発生過程の遺伝子発現制御機構の研究、生物発生過程からのアルゴリズムの抽出と工学応用をめざしたモデリング、自己修復する工学システムの構築	・動物発生時のパターン形成機構に関する研究 ・形態形成と細胞周期との関係に関する研究 ・自己組織化工学システムに関する研究 ・人間とロボットの関係に関する研究
友次 克子	TOMOTSUGU Katsuko	教授	同志社大学大学院 文学研究科 博士前期課程修了、 同志社大学大学院 文学研究科 博士後期課程満期退学	文学修士 (同志社大学)	日本認知言語学会、日本英語学会、表現学会	英語学、言語学	言語形式と意味の対応、日英語対照研究	・アスペクトの研究 ・コーパスに基づく使役構文の研究 ・知覚動詞、心理動詞の分析 受動文の研究、 ・受動文の習得

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
林 章浩	HAYASHI Akihiro	教授	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 企業科学専攻 博士課程修了、 南山大学大学院 理工学研究科 ソフトウェア工学専攻 博士課程修了	MBA（筑波大 学） 博士（システム ズ・マネジメン ト） （筑波大学） 博士（ソフトウェ ア工学） （南山大学）	電子情報通信学会ソフト ウェアインタープライズ モデリング研究会、イ ンフマティックスサエ ティ	ソフトウェア品質管理 、プロセス改善、経営 学、経営戦略論、オペ レーションズマネジメン ト、サプライチェーン マネジメント、デー タマイニング、意思決 定論、ソフトウェア開 発	システム開発プロセスの 継続的改善手法	・米国 Motorola,Inc社のJapan Productにおける開発、プロジェクト管理業務 ・NTT本社、NTT研究所、NTTコミュニケーションズ、NTTデータにおけるコンサルティング業務 ・IBMビジネスコンサルティングサービスにおける戦略コンサル ティング ・CMM, CMMI, ISO/IEC 15504リードアセッサー、ISO9001審査員補を用いたプロセス改善コンサルティング ・統計士、データ解析士、JMPなど統計解析技術を用いた定量的品質管理コンサルティング ・各大学、企業、研修所におけるセミナー講師
谷口 ジョイ	TANIGUCHI Joy	教授	東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻 博士課程単位取得満期退学	博士（学術） （東京大学）	社会言語学会、異文 化間教育学会、全国語 学教育学会、日本語教 育学会、日本質的心理 学会、日本オセアニア 学会	応用言語学、社会言語 学、バイリンガリズム	小規模自助グループにお ける継承日本語教育	A qualitative approach to language of your bilingual children, KLA Journal Vol.5 p.14-24 (May 2019)
本多 明生	HONDA Akio	教授	東北大学大学院 文学研究科 人間科学専攻 博士後期課程修了	博士（文学） （東北大学）	日本心理学会、 Association for Psychological Science ほか	心理学（実験心理学、感 性工学、災害心理学な ど）	現代社会における多様な 人間行動の解明	Honda, A., Tsunokake, S., Suzuki, Y., & Sakamoto, S. (2018). Effects of Listener's Whole-Body Rotation and Sound Duration on Horizontal Sound Localization Accuracy. Acoustical Science and Technology, Vol. 39 (4), 305-307. ほか
兼子 一	KANEKO Hajime	教授	大阪市立大学大学院 文学研究科 社会学専攻 後期博士課程単位取得満期退学	修士（文学） （大阪市立大学）	日本社会学会、日本社会 学理論学会、日本社会分 析学会、日本芸術療法学 会、アートミーツケア学 会 ほか	社会学（社会学理論）、 社会調査論、エスノメソ ドロジー、芸術社会学 、宗教社会学、エンパワ メント科学	エスノメソドロジー（成 員カテゴリー化実践の分 析）、アーツセラピーを 用いたエンパワメント活 動の調査、アートエンバ ワメント活動と限界芸術 の理論、エンパワメント 型アーツセラピスト支援 ツールの開発	【調査研究】 ・「エンパワメント型アーツセラピーの動向」（前・後編）『さぼー と：知的障害福祉研究』日本知的障害者福祉協会 編（2023） ・「信者が『世代』を語る時」 『宗教と社会』宗教と社会学会（1999） 【理論研究】 ・「エンパワメント型アートセラピー研究の現在」（共著） 『心の危機と臨床の知』甲南大学人間科学研究所（2019） ・「実体的権力理論から唯名論的権力作用論へ」 『社会分析』日本社会分析学会（2000） 【その他】 ・『アクティブ・インタビュー』せりか書房（2004）〔翻訳〕

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
松田 崇	MATSUDA Takashi	准教授	東亜大学通信制大学院 総合学術研究科 デザイン専攻修了	修士(芸術) (東亜大学)	日本デザイン学会	グラフィックデザイン、 Webデザイン、シンボル マーク	ヴィジュアル・コミュニ ケーション	ヴィジュアル・コミュニケーションおよびコミュニケーションデ ザインの実践と研究《グラフィックデザイン「情報学部パンフ レット」、サイン計画・ピクトグラム制作「建築棟および学内サ イン」、プロダクトデザイン「机・書棚・パーテーション」》
伊藤 明倫	ITO Akihito	准教授	名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 博士前期課程修了	修士（芸術工学） （名古屋市立大 学）	日本映像学会	映像インスタレーショ ン、メディアアート、メ ディアデザイン、現代 アート	時間・空間について、無 意識・情動についての作 品制作と研究	作品発表： 国際展覧会CURRENTS 2016入選（アメリカ）、国際展覧会FILE 2018入選（ブラジル） 国際論文： I.Takahashi and A.Ito, Siggraph Asia 2015, Art Papers Article No. 5 /International Conference Proceedings 「ACM Transactions on Graphics」 著書： DATA CITIES: The XIth Annual Meeting of UNESCO Creative Cities Network/UNESCO p186-p191
渡邊 言也	WATANABE Noriya	准教授	玉川大学大学院 工学研究科 脳情報専攻 博士課程後期単位取得退学	博士（工学） （玉川大学） 修士(神経科学) （筑波大学）	日本神経科学学会 日本心理学会 北米神経科学学会	認知神経科学、生理心理 学	ヒトの感情とストレスの 神経生理基盤の解明	主要な論文 1. Watanabe et al. (2023) "Multimodal deep neural decoding reveals highly resolved spatiotemporal profile of visual object representation in humans." <i>NeuroImage</i> 2. Watanabe & Takeda.(2022) "Neurophysiological Dynamics for Psychological Resilience: A View from the Temporal Axis." <i>Neuroscience Research</i> 3. Watanabe et al. (2019) "Ventromedial Prefrontal Cortex Contributes to Performance Success by Controlling Reward- driven Arousal Representation in Amygdala." <i>NeuroImage</i> 4. Watanabe et al.(2019) "Reward-driven Arousal Impacts Preparation to Perform a Task via Amygdala-Caudate Mechanisms." <i>Cerebral Cortex</i> 5. Watanabe et al. (2013) "Reward Prediction Error Signal Enhanced by Striatum-Amygdala Interaction Explains the Acceleration of Probabilistic Reward Learning by Emotion." <i>The Journal of Neuroscience</i>

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
臼田 泰如	USUDA Yasuyuki	講師	京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士後期課程指導認定退学	博士（人間・環境学） （京都大学）	社会言語科学会、日本語用論学会、日本認知科学会、International Pragmatics Association	相互行為分析、語用論、コーパス言語学	会話の構造の言語学的・社会学的・認知科学的解明、および社会活動における会話の機能・実態の解明	・小磯 花絵, 天谷 晴香, 居関 友里子, 臼田 泰如, 柏野 和佳子, 川端 良子, 田中 弥生, 伝 康晴, 西川 賢哉, 渡邊 友香 (2023) 『『日本語日常会話コーパス』設計と構築』国立国語研究所論集, 24, 153-168. ・臼田泰如 (2021) 「態度をほのめかす例示：日本語引用表現「みたい」の分析」『国立国語研究所論集』20, 149-169. ・Usuda, Yasuyuki (2020) Japanese Quotation Marker "tte" in Conversation using Everyday Conversation Corpus. The Proceedings of Oriental COCOSDA 2020. ・臼田泰如 (2019) 「TRPGにおける「ここ」：仮想的秩序と現実世界の秩序との整合をめぐる断章」松井広志・東園子・井口貴紀・大石真澄・秦美香子編『多元化するゲーム文化と社会』, 139-159.
津田 裕之	TSUDA Hiroyuki	講師	京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士後期課程修了	博士（人間・環境学） （京都大学）	日本心理学会、日本認知心理学会、日本基礎心理学会、日本環境心理学会	認知心理学、実験心理学、認知科学、環境心理学	人間の知覚・記憶・感性、空間や環境が人間の心理や行動に与える影響、美術の心理学	・古見文一・小山内秀和・樋口洋子・津田裕之編、『はじめての心理学概論 公認心理師への第一歩』, ナカニシヤ出版, 2019年4月. ・津田裕之 (2023). 計算美術史の可能性と課題. 西洋史学, 275号, 60–64. ・Tsuda, H., & Kawabata, H. (2023). materialmodifier: An R package of photo editing effects for material perception research. Behavior Research Methods. ・Tsuda, H., Fujimichi, M., Yokoyama, M., & Saiki, J. (2020). Material constancy in perception and working memory. Journal of Vision, 20(10):10, 1–16. ・Tsuda, H., & Saiki, J. (2018). Constancy of visual working memory of glossiness under real-world illuminations. Journal of Vision, 18(8):14, 1–16.